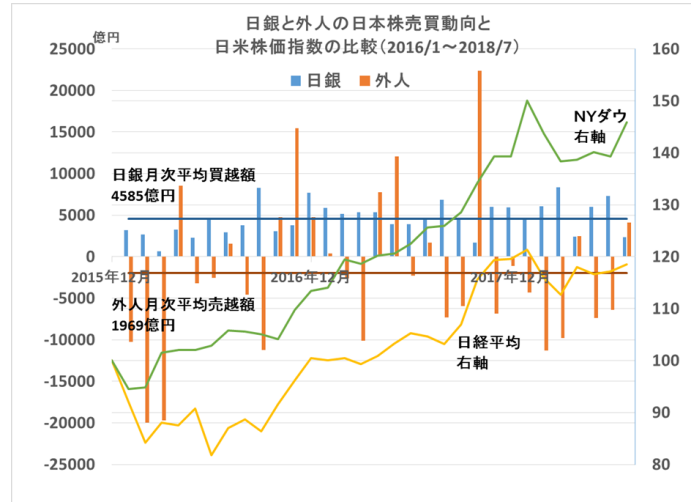


ATTENTION

日銀は早くETF買いの愚かさに気づくべき



日銀のETF累計購入額が20兆円を越えました。7月末の時価評価は約25兆円。日本株全体の4%弱を中央銀行が保有していることとなります。欧米の中央銀行が金融緩和目的で株を買ったことはありません。そもそも、それは禁じ手と見られています。株の流動性にも問題が出ていて、その象徴がファーストリテーリング。日銀の実質保有比率は浮動株の90%にも達していて、株価形成がゆがめられていることが考えられます。予想PERは40倍。通常の投資尺度からは買えない水準です。上のグラフは、2016年1月からの外人と日銀の売買動向を見たものですが、日銀の月次平均買い越し約4600億円に対し、外人は約2000億円の売り越し。外人が日銀の買いに対して売りに回り、株価を抑える側に立っている構図です。資金が膨れ上がる外人でも、日本市場は魅力的な市場ではないというわけです。その様が、その間の日米株式市場のパフォーマンスによく現れています。2015年末の100を起点として日経平均は118.5に留まりますが、NYダウは145.9。日銀は、自分たちで株価を押し上げられると見ているとすれば、それは重大な誤りです。市場は水の流れのようなもので、投資を目的としない資金による株価のゆがみは、価格裁定で打ち消されます。日銀は早くそれに気づくべきです。

OPINION

日本の将来を見据え、自分がしっかり生きることが肝要

平成は来年で終わります。このあたりで、私なりの20年、30年先の日本の展望を思い巡らせてみたいと思います。将来は楽観できず、ますます自分自身がしっかり生きないといけなことを感じます。

1. 国の借金は、インフレで帳消し。ツケは全部国民に
2. ハシの上げ下げまで手取り足取りの国のやり方は変わらない
3. 日本中、津々浦々、外国人(労働者)で溢れかえる
4. 高齢者が大幅に増える。どこを見ても年寄りばかりに
5. 在宅勤務や労働力の減少で、通勤ラッシュはなくなる
6. 観光が基幹産業になる
7. 先端技術分野は韓国、中国、台湾に負ける。せいぜい生き残るのは自動車と電子部品のみ。
8. 日本の終身雇用や新卒一括採用はますますガラパゴス化する
9. 世界のグローバルな動きのなかで、日本の立ち遅れが目立つ
10. 既得権益を保持するため、規制改革は遅々として進まない
11. 公的年金には頼れず、NISA、iDeCoなど自助努力による資産形成が必須になる
12. 生活に困窮する老人が大幅に増える
13. 賢明な資産運用が、心配のない人生を送るためにカギとなる
14. 個人の資産形成の役割の一端を担う金融機関の自己利益優先姿勢は変わらない
15. 顧客利益を最優先する投資助言料だけを収入とするアドバイザーの必要性が高まる(希望的観測)

MARKET

| | (8月末) | (7月末比) |
|------|-------------|-------------------|
| 日経平均 | 22,865.15円 | +311.43円 (+1.4%) |
| NYダウ | 25,964.82ドル | +549.63ドル (+2.2%) |
| 米ドル | 111.10円 | -0.80円 (-0.7%) |

今月の言葉:

それでもわしは学ぶぞ
-両手を二本の杖で支えられた自画像の
詞書

ゴヤ「ボルドー素描帖」(当時80歳)
スペインの画家(1746~1828)

congromaritt・ディスカウントは本当にあるのか？－日米企業比較

congromaritt・ディスカウントといわれ、多くの事業部門を持つ巨大企業の業績は単一・少数事業の企業に比べて見劣りし、株価も割り負けするとされます。確かに日本の代表的複合企業を見てみると「全くその通り」とうなずいてしまいます。たとえば東芝。不正会計が発覚し、さらには米国原子力発電の巨額損失計上。東芝本体を存続させるために虎の子の医療機器部門やPC・半導体部門を売却。残った本体は以前と全く変わった会社になってしまいました。テレビのCM「Leading Innovation Toshiba」が寂しく響きます。こうなった原因は歴代トップの「おれが言うとおりにやれ」「チャレンジ」などという体育会経営、先輩トップがやった事業はつづせないというヒラメ感覚、大企業特有の官僚体質など。三菱重工も代表的複合企業ですが、こちらも全く冴えません。豪華客船は完成間近で大火災を起こし数億円の損失を計上。三菱発祥の造船は見る影もなくりました。昔一部門だった三菱自動車はリコール隠し、燃費不正を繰り返して、日産に身売り。ちなみに最後に不正行為を行なったときのトップは、1990年代三菱重工の天皇といわれた相川賢太郎氏の息子です。さらに国産発のジェット旅客機MRJは5回も完成時期を延期、いまではライバル機が各々世界2大航空メーカー傘下に入り販売を伸ばしていて、MRJの行く末が危惧されています。そしてNEC。一言で言うと、ずいぶん影が薄くなったという印象です。1980年代は飛ぶ鳥を落とす勢いでしたが、縮小に続く縮小を繰り返して、企業が衰退していく過程を見ているようです。

こう見ると、やはり巨大企業は成長を続けるのはむずかしいと納得してしまいがちです。そこで、ちょっと米国の代表的congromaritt企業を見てみましょう。まずバンドエイドやベビーパウダーでおなじみのジョンソンエンドジョンソン。この会社は経営理念「わが信条」を掲げ、全役社員に顧客、社員、社会そして株主への責任を徹底させています。250社を超える企業群を持ち、各社に広い裁量を与える「分社分権経営」という独特の企業統治を行なっています。

2008年、2009年には「世界でもっとも尊敬すべき企業」に選ばれました。「信条」の最後に来る株主に対しては55年連続増配、1980年から株価は80倍という形で応えています。

次にポストイット、スコッチテープでおなじみのスリーエム。産業用、ヘルスケア、消費財、エレクトロニクスなど5つの事業部門を持ちます。企業ビジョンは「もっとも革新的な企業になり、顧客から優先的に選ばれる企業になること」新製品を開発し成長し続ける背景には個人の創造性を重視する「人の尊重」「アイデアの尊重」「自主性と失敗の許容」「15%カルチャー（労働時間の15%を業務と別にビジネスに役立つ研究に取り組める）」という独特の企業カルチャーがあります。経営理念の一つに「持続性あるグローバルな成長を通じて株主に魅力ある配当を行なう」ことを掲げ、実に60年連続増配中です。

そして最後にイリノイ・ツール・ワークス。この会社は自動車部品、食品機器、試験測定器、溶接機器、ポリマー類、建設工具、特殊製品の7つの異なる事業部門を持つ典型的な複合企業です。経営面では「80:20の法則（売上の80%を生む20%の顧客との関係重視）」「顧客志向のイノベーション」「分権化された起業家文化」が特徴です。全7事業が20%以上の営業利益率を誇っています。この会社も45年連続増配中です。スリーエムは創業116年、JNJ132年、イリノイ106年のいずれも100年企業ですが、3社とも売上高営業利益率は25%前後で、株主資本利益率(ROE)は、スリーエム49%、JNJ32%、イリノイ50%とあっけにとられる高さです。さて、先にあげた日本企業とのこの差はいったい何なのでしょう。それは分権経営が浸透し、全役社員に広い裁量を与え、自主性を重んじ、個人を尊重する企業文化にあるといつてよいでしょう。企業文化は一朝一夕ではなく、長年かかってできる体質のようなものなので、いい意味でも悪い意味でもなかなか変わりません。

SEMINAR

びとうファイナンシャルサービス代表、尾藤峰男が教える 『こうすればお金の運用で必ず成功する！セミナー』

大切なお金の運用で、本当のことを知るのは大変むずかしいです。預金金利はゼロ、国の年金だけでは足りず、金融機関も利益追求に走っていて、自分自身でしっかりお金を運用する必要がますます高まっています。

このセミナーで、他では絶対に聞けない「お金の運用で必ず成功する方法」を学びましょう。40年の投資経験と資産運用で頂点のグローバル資格を持ち、金融機関とのしがらみが全くない資産運用アドバイザー、尾藤峰男だから語れる「お金の運用で必ず成功する方法」を伝授します！6名様限定です。お早めにお申し込みください！



びとうファイナンシャルサービス 代表 尾藤 峰男

日時： 2018年9月22日(土) 15:00～17:00

場所： 東京都千代田区有楽町1-12-1 新有楽町ビル2F リファレンス会議室

JR有楽町駅 中央西口/日比谷口より1分

東京メトロ有楽町線有楽町駅 D2出口より連絡

東京メトロ日比谷線・千代田線日比谷駅 A6出口より3分

都営三田線日比谷駅 B1またはB2出口より3分

参加費：1,000円(当日支払い)

メールまたは電話にて「9月22日セミナー参加希望」として、ご氏名、ご年齢、ご連絡先をお知らせください。

メール： info@bfsc.jp Tel： 03-6721-8386

- どうしたら株式投資で最も成功するか
- 本当に正しいお金の運用法とは
- もっとも効率的にお金を増やす方法とは
- 国際分散投資はどうやったらいいか
- よい金融商品の選び方
- 証券会社や銀行にだまされないために
- お金に困らない老後の安心を確保するために
- NISAやiDeCo(個人型確定拠出年金)の活用法
- 安心してお金の相談をできる場所はどこか

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386
携帯：070-5567-3311

FAX: 050-3156-1072
電子メール： info@bfsc.jp